ひとこまです。 くる新入生。だれもが笑顔になる春の 桜の下を、 待っていたかのように咲き誇る校庭の 四月六日は入学式でした。一年生を 保護者に手を引かれ歩いて

今年度、 りました。五年ほど前から児童数が徐々 うな勢いです。 に増加し、来年度には三百名を超えそ 入学してきました。一年生を加えて、 新栄小学校には、六十名の一年生が 全校児童は二百八十三名とな

見えます。一年生に負けないほど、ど の子の瞳も希望で輝いています。 した。一学年進級し、なんだか立派に 生と一緒に二~六年生が登校してきま 四月七日は始業式。ぴかぴかの一年

学期は、やる気とエネルギーがあふれ 新芽がすくすく成長するように、新

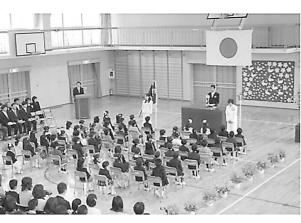
てきます。そうした気持ちを大切に新 一歩一歩前進していく自分の姿が見え た新年度だからこそ、目標に向かって 話がありました。新しい気持ちで迎え それに向かって努力しましょう」とお 校長先生からは、「目標を立てて、

from新栄小学校

思います。 しい学年をスタートさせていきたいと

きます。 ることができるよう、見守り支えてい 一人が楽しく充実した小学校生活を送 職員一丸となって、子どもたち一人

よろしくお願いいたします 家庭・地域の皆様、今年度もどうぞ



第 百七十八 話

大正時代の結婚

決められています。現代は晩婚 みにより成立すると法律により るような思いもあります。 ます。何か昔の結婚に戻ってい をしているなどと報道されてい り、親や商店街、地域が結婚活動 る年齢の人も独身で生活してお 化が進み、昔なら親になってい 結婚は、男性と女性の合意の

お嫁に来られた人のお話です。 大正時代に大口村から青山へ

う仲介役の人がいて、その人の せられ親の言うままに結婚する いうちに話が進み、見合いをさ 年十九歳でした。本人の知らな 十一屋の裁縫所で稽古中の数え お世話で嫁いできました。まだ と良くないというので、二か月 ことになりました。年が変わる 実家の近くに、「なら屋」とい

西の方へ走りました。あとでわかったこ とですが、自動車の通れる道は岩倉街道 した。確か東の方と聞いたのに、どんどん らいました。当日、初めて自動車に乗りま でした。嫁入り道具は大八車で届けても 後には結婚式ということになりました。 大正十三年の春、旧暦の十二月の暮れ

でのがたり 豊場へ出る道は、まだ 青山の中央を通って ので、ガタガタのどろ 完成していなかった

しかありませんでした。

んこ道でした。

とそらも親ぶる でしょう。 75.05何

翌日は人力車だったので、少し狭い道

(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考 今は昔の物語です。

にしました)

ろでした。 ひどく疲れました。豊山村、青山というと ら、山など一つもなく田畑の開けたとこ ころは山ばかりつくので山の中と思った と赤の三枚重ね着で、隣歩きや里帰りで と三枚の重ね着、翌日の色直しは色二枚 でも通れました。式当日の着物は黒白赤

しまなびすと